

暮らしの視点(3)

親や親族とのつきあい方の行方

— 「父子帰省」はありか？ —

主任研究員 北村 安樹子

<広がる家族の範囲>

別稿^{*1}では、既婚女性が子どもに対し、成人して以降や、結婚したかどうか、親元を離れたかどうかにかかわらず、「家族の一員である」と感じる傾向が近年強まっていることを指摘した。このような意識は、息子やその配偶者、息子の子どもといった「男系」の関係性に加え、娘やその配偶者、娘の子どもといった「女系」の関係性に関しても広がっている。

このような意識の変化をふまえた上で、本稿では親や親族とのつきあいをめぐる、夫婦の意思決定に関する調査結果を紹介し、これらがどのように変わっていくのかについて考えてみたい。

<親や親族とのつきあい、約半数が「ふたりで一緒に」意思決定>

国立社会保障・人口問題研究所が定期的におこなっている「全国家庭動向調査」では、「①親や親族とのつきあい」「②車や耐久消費財など高価なものの購入」「③家計管理・運営」「④育児や子どもの教育」という4つの側面に関する夫婦の意思決定の実態をたずねている。

この結果をみると、「①親や親族とのつきあい」は、「②車や耐久消費財など高価なものの購入」とともに、「ふたりで一緒に」と答えた人が半数前後を占め、夫婦で相談して意思決定を行うケースが多数派となっている(図表1)。これに対して、「③家計管理・運営」や「④育児や子どもの教育」では「妻」と答えた人(「妻」または「どちらか」として妻)と答えた人の合計、以下同じ)が「ふたりで一緒に」という人を上回っており、妻が主たる意思決定者であるケースが多いテーマとなっている(図表2)。

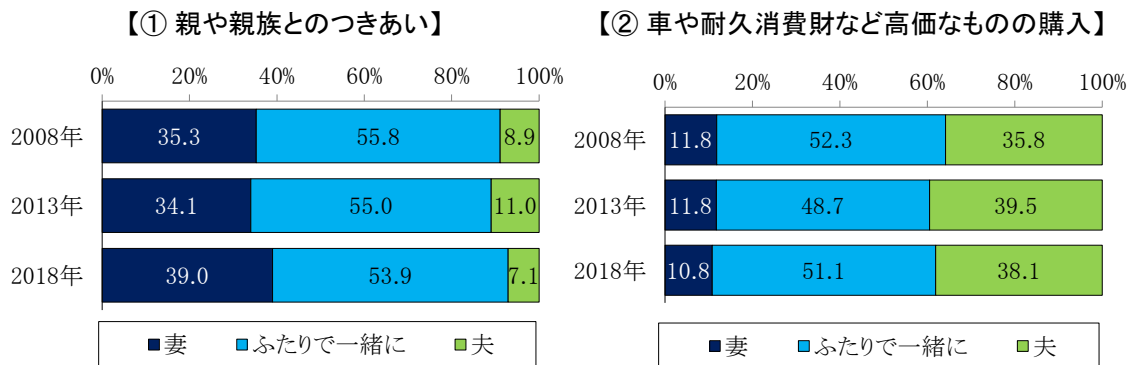
<「妻」が意思決定する夫婦が微増傾向>

このようななか、直近の調査では「①親や親族とのつきあい」に関し、「妻」と答えた人の割合が5年前や10年前に比べて微増する傾向がみられる(前掲図表1)。同様の傾向は「④育児や子どもの教育」に関してもみられ、妻が意思決定する夫婦の割合が増加している。

「①親や親族とのつきあい」に関しては「ふたりで一緒に」が最も多い傾向に変化はなく、このようなケースは多数派ではない。しかし、妻の意思決定力が強まっているケースが増えていることをふまえれば、親や親族とのつきあい方やその範囲は、「ふ

たりで一緒に」意思決定する場合を含めて、妻の意向をより強く反映するものになっていく可能性もあるのではないか。

図表1 夫婦の意思決定に関する有配偶女性の回答

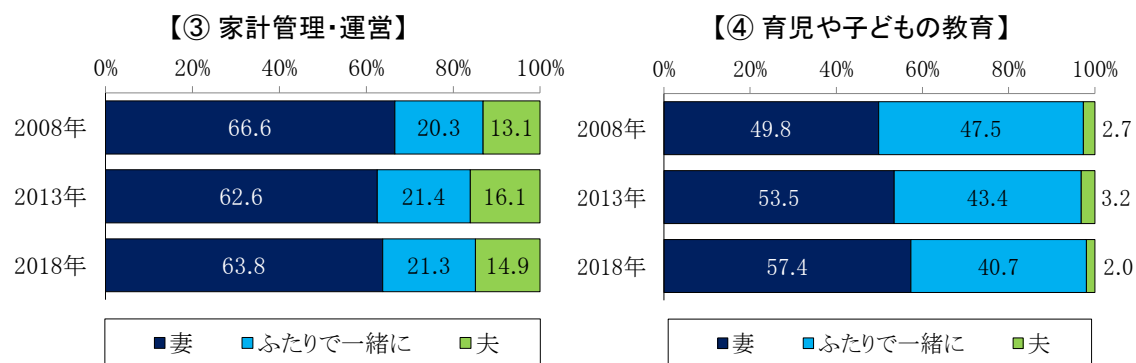


資料：国立社会保障・人口問題研究所『第6回全国家庭動向調査報告書』（2020年3月）より作成。

注1：調査対象者は全国の結婚経験のある女性。図表1、2の項目①～③のすべてに回答した、有配偶女性に関する集計値。

注2：設問文はあなた方ご夫婦の間で、次のようなことを決めるのはどちらですか。「妻」は「妻」「どちらか」と妻」と答えた人の合計。「夫」は「夫」「どちらか」と夫」と答えた人の合計。

図表2 夫婦の意思決定に関する有配偶女性の回答



資料：図表1に同じ。

注1：③の集計対象は図表1に同じ。④の集計対象は、①～④のすべてに回答した子どものいる人。

注2：図表1に同じ。

<男性と親や親族とのつきあい―「父子帰省」はありか？>

今回の新型コロナウイルスの感染拡大によって、移動・帰省の「自粛」や「オンライン帰省」等の言葉が話題になったが、それ以前は、子どものいる男性が、妻を連れず子どもと一緒に郷里に帰省（訪問）する「父子帰省」という言葉が注目された。「父子帰省」をめぐるのは、妻（子どもの母親）と一緒に帰省（訪問）しない（できない）ことに対する批判的な見方がある一方で、妻が心身を休めたり、仕事等に取り組む時間をつくる夫の心遣いととも、父親が自身の親や子どもと過ごす時間をポジティブ

にとらえる意見等も注目された。

親や親族とのつき合い方をめぐり、夫婦ふたりで一緒に考える人が多く、妻の意思決定が強まっている現状をふまえれば、「父子帰省」というライフスタイルにも夫婦の話し合いや妻の希望が反映されている可能性があるだろう。

近年、息子に比べ娘には孫育てを頼られる機会が多い一方、親にとって娘との親密な関係を生涯楽しめることを好ましいと感じる人も増えているといわれてきた*²。娘がいる親に比べて孫育ての出番が少なかった息子の親が、子連れ妻なしの父子帰省(訪問)を迎えるケースが増えるということはあるのだろうか。

(ライフデザイン研究部 きたむら あきこ)

【注釈】

*1 北村安樹子「既婚女性からみた家族の範囲 ―結婚しても、しなくても家族のままの『息子』や『娘』―」

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/wt2009c.pdf>

*2 北村安樹子「孫育ての出番が少ない息子の親」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/monthly/pdf/1812_9.pdf